

スタンダード作業連絡用無線電話装置保証書

本書はお買上げの日から下記期間中故障が発生した場合には本書前ページ記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
詳細は前ページをご参照ください。

品番	RP825
保証期間	お買上げ日より 1 年
* お買上げ日	年 月 日

* お 客 様	ご住所 _____
	お名前 _____様
	電 話 () -
* 販 売 店	住所・氏名 _____
	電 話 () -

株式会社スタンダード
東京都目黒区中目黒 4-8-8 TEL 03-3719-2231
ご販売店様へ * 印欄は必ず記入してお渡してください。

作業連絡用無線電話装置
型式 RP825

取扱説明書

株式会社スタンダード

目次

1. 概要	
1-1. はじめに	2
1-2. システム概要	2
1-3. 主な特長	3
2. 構成及び諸元	
2-1. 機器構成	4
2-2. 諸元	4
3. 準備	
3-1. 本体各部の名称と動作	5~6
4. 取り扱い方法	
4-1. ご使用前の注意	7
4-2. 電源接続	8
4-3. アンテナの接続	8
4-4. マイクロホンの接続	9
4-5. オプションの受信装置接続	10
4-6. チャンネルの設定	11
4-7. 受信OFF設定	11
5. 通話	12
◎ アフターサービスについて	13
◎ 保守・お手入れ	13
◎ 無料修理規定	14

1. 概要

1-1. はじめに

弊社はこれまでに作業連絡用無線システムの開発を行い、各産業分野の様々な事業所や工場に納入してまいりました。

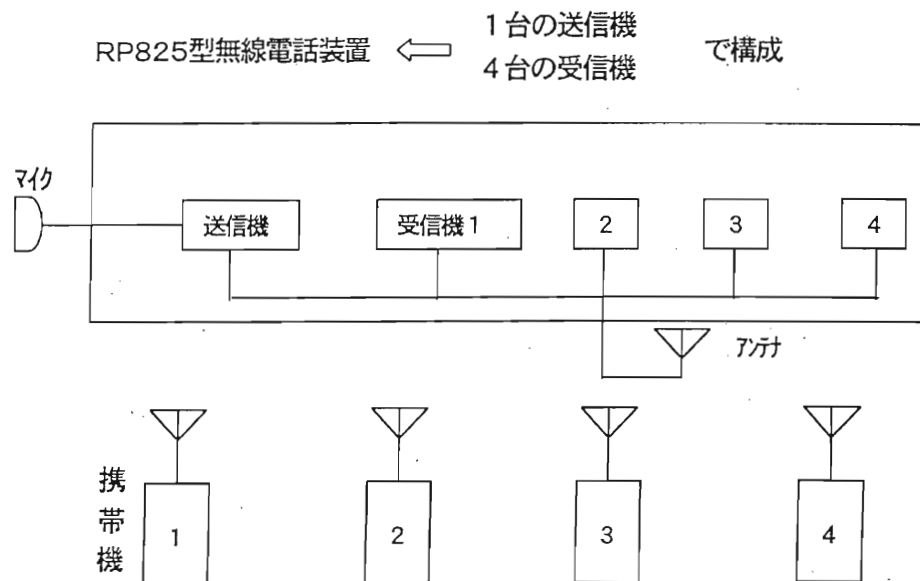
このたび、新たに 400MHz 帯、1mW の電波を利用したハンドフリー複数同時通話ができるシステムを開発しました。

本システムは、作業現場でのコミュニケーションの手段として、用途に応じて使い勝手の良いシステムの展開ができると思います。

本機は通話に使用する携帯機（HX823・HX833型）の中継動作を行います。

1-2 システム概要

このシステムは 400MHz 帯、1mW の FM 電波を使用した複数同時通話システムです。



①本機は携帯機からの4波の電波を同時に受信するため、無線電話装置内に4台の受信機を持っています。

②上図の構成の様に、無線電話装置も含めた5人が同時に通話できます。

1-3. 主な特長

1) 適切な出力

1mW の無線出力のため、工場の設備、機械の電気回路に悪影響を与えません。

2) 5 者同時通話

無線主装置 1 台、携帯機 4 台までの同時通話が可能です。

3) 混信・妨害対策

複数同時通話を行う為、混信や妨害波の影響を少なくする必要があります。本機は第 1 混合器に DBM を、第 2 混合器に FET を採用し混信に強い回路構成となっています。VCO は独自に開発した物を使用し質の良い電波送出を行います。

4) AC、DC 対応

電源は DC12~24V を標準としていますが、AC100V でも使用出来るよう背面に AC100 アダプター用コネクタがあります。

5) ノイズ対策

電源回路にはイグニッションノイズ等の対策の為ノイズフィルタを挿入し、ノイズに強い回路を採用しています。音声回路にはコンバンダ回路を採用し、ノイズの少ない通話が出来るようにしてあります。

6) チャンネル変更が簡単

送信機、受信機を独立したマイコンが PLL シンセサイザーを制御していますので、現場でのチャンネル変更が簡単に出来ます。

7) 他のシステムへの考慮

ほかのシステムへの影響、他のシステムからの影響を考慮するため、トーンスケルチを採用しトーンが一致しないと音声ゲートが開かない様、上り、下りともトーン周波数 33 波から 1 波を設定する事が出来ます。又、インターリブ波も送信機をインターリブチャンネルに設定すると自動的に受信機もインターリブチャンネルになる様になっています。

8) 着信機能

電波を受信し、音声が入る前に着信音が出る設計となっています。着信音の音量を可変する事も出来ます。

9) 簡単取付

空中線の接続用コネクタは M 型のケーブル付で出していますので、背面での空中線ケーブルの接続が容易に出来ます。クレーン車等の作業用として設計してあります。ブラケットを車に取付け、本体は着脱方式となっています。

10) オプション

オプションの受信装置を接続することにより無線主装置 1 台に対し最大、携帯機 8 台までの同時通話が可能になります。

2. 構成及び諸元

2-1. 機器構成

1) 無線主装置

本体	RP825	1 台
ブラケット (取付けビス付)		1 式
DC ケーブル		1 式
予備ヒューズ (3 A)		2 本
取扱説明書		1 部

2) オプション

スタンドマイク	CMP825	1 本
スタンドマイク	CMP826	1 本
受信装置	ICX400R2 (1 対 6 - ICX400A6 タイプ)	1 台
受信装置	IXC400R4 (1 対 8 - ICX400A8 タイプ)	1 台

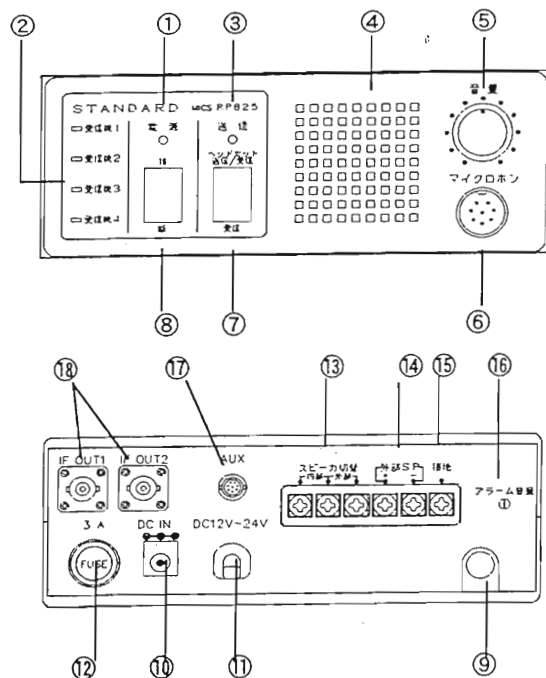
2-2. 諸元

1) 無線主装置

寸 法	W 175 × D 65 × H 215 (mm)
	但し、突起物は除く
重 量	3.0 kg
車載ブラケット	500 g

3. 準備

3-1. 本体各部の名称と動作



- ①電源表示
- ②受信表示
- ③送信表示
- ④内部スピーカ
- ⑤通話用ボリュームツマミ
- ⑥マイク用端子
- ⑦ヘッドセット用スイッチ
- ⑧電源用スイッチ
- ⑨アンテナ接続用ケーブル
- ⑩ACアダプタ用端子
- ⑪DC電源接続ケーブル
- ⑫ヒューズ
- ⑬内・外部スピーカ切換端子
- ⑭外部スピーカ接続端子
- ⑮接地
- ⑯アラーム音調整ボリューム
- ⑰オプション端子
- ⑱受信 IF 出力端子

①電源表示

本機がスタンバイ状態の時、表示します。

②受信表示

使用している子機の番号を表示します。(着信すると『プッ』の単音がスピーカより出ます。)受信機のPLLがアンロック及び指定チャンネル以外にチャンネルを設定した場合、点滅と同時に『プップッ』のアラーム音がスピーカより出ます。

③送信表示

親機が送信している時、点灯します。(送信する都度『ピッ』の単音がスピーカより聞こえます。)送信機のPLLがアンロック及び指定チャンネル以外にチャンネルを設定した場合点滅し、『ピッピッピッ』のアラーム音がスピーカより出ます。

④内部スピーカ

通話の音声及びアラーム音は、このスピーカから出ます。

⑤通話用ボリューム

このツマミで音量を調整します。

⑥マイク用端子

スタンドマイク (CMP 8 2 5 又は CMP 8 2 6) を接続します。

⑦ヘッドセット用スイッチ

このスイッチをヘッドセット側にする、送信・受信となりヘッドセットでの通話が可能となります。

⑧電源スイッチ

このスイッチを接の側にする、本体に電源が供給されスタンバイ状態になります。

⑨アンテナ接続用ケーブル

外部アンテナを接続するケーブルです。

⑩ACアダプタ用端子

ACで動作させる時オプションのACアダプタを接続する端子です。

⑪DC電源接続用ケーブル

DC12V~24V 入力用ケーブルです。指定の電圧以外を接続しないで下さい。

⑫ヒューズ

本機に過電流が流れたとき、ヒューズを切断して事故を防ぎます。

⑬内・外部スピーカ接続端子

内部スピーカを使用する時は“内部”を接続します。

外部スピーカを使用する時は“外部”を接続します。

⑭外部スピーカ接続端子

外部スピーカを接続します。指定以外のスピーカは使用しないで下さい。

⑮接地

地気に接地して下さい。

⑯アラーム音調整ボリューム

各種アラーム音の調整用ボリュームです。

⑰オプション端子

オプションの受信装置 (ICX400R2 または ICX400R4) を接続する場合に使用します。

⑱受信 IF 出力

オプションの受信装置 (ICX400R2 または ICX400R4) を接続する場合に使用します。

4. 取り扱い方法

4-1. ご使用前の注意

- 1) 機器の分解は電波法で禁止されています。絶対に行わないで下さい。
- 2) 本機は、電波法第8条「技術基準適合証明を受けた無線局」です。本機の上プタに貼られている証明ラベルは絶対にはがさないで下さい。証明ラベルをはがすと、技術基準適合機としての効力を失い使用出来なくなります。
- 3) テレビ、ラジオ、公共通信等に雑音が入ったり、混信が生じる時は本機の使用はおやめ下さい。また、発電所、変電所、放送局や無線機の近くなどでは混信したり、通話音声が途切れたりする恐れがありますのでご注意ください。



警告

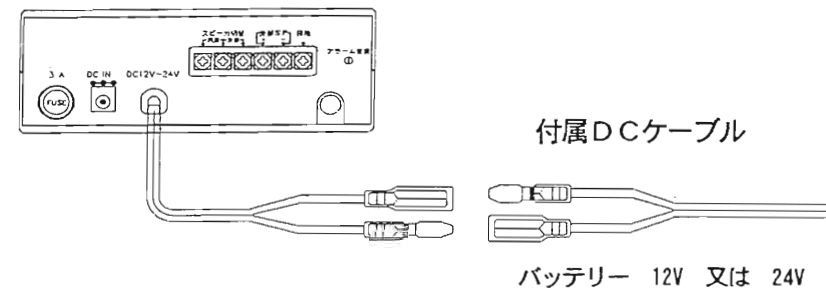
本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を取得しています。従って、以下のことを守ってください。

- ① 製品に付いている表示は、技術基準適合証明マークです。証明シールは絶対にはがさないで下さい。
- ② 表示マークの付いている製品を郵政大臣の許可無しに改造して使用することはできません。本機の変更、改造は電波法により禁じられています。
- ③ 不法改造した場合は法律により罰せられます。

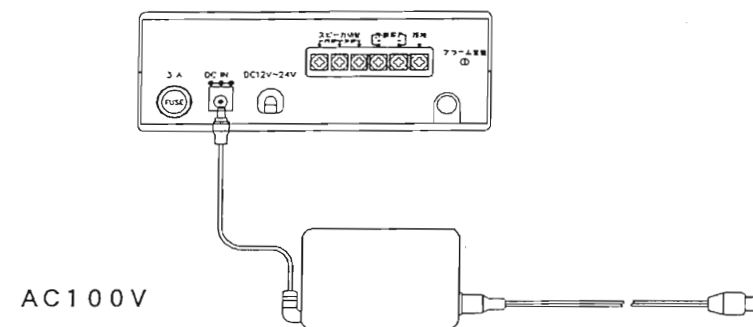
4-2. 電源の接続

本機は電源に2通りの仕様があります。

バッテリー使用の時



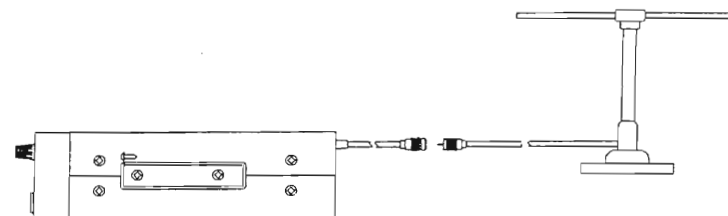
ACアダプター使用の時



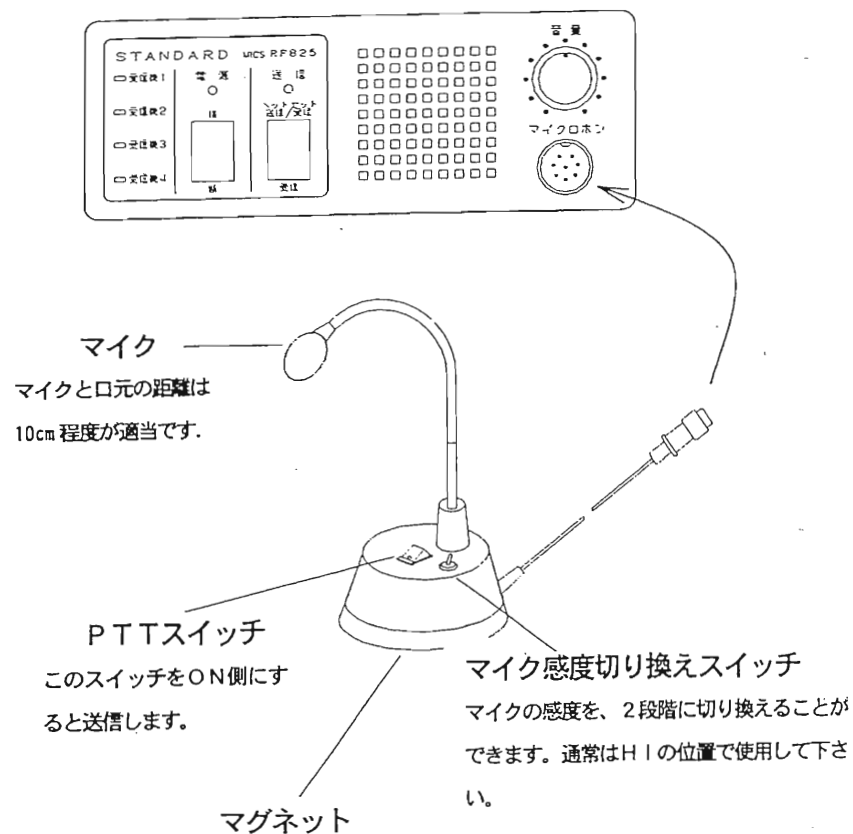
*ACアダプターを使用希望の際は、お買い上げの販売店にご相談下さい。

4-3. アンテナの接続

高周波数出力はM型コネクターで出ています。本機のアンテナは指定のものをご使用下さい。アンテナは取付部がマグネット型及び金具型の2種類があります。



4-4. マイクロホンの接続

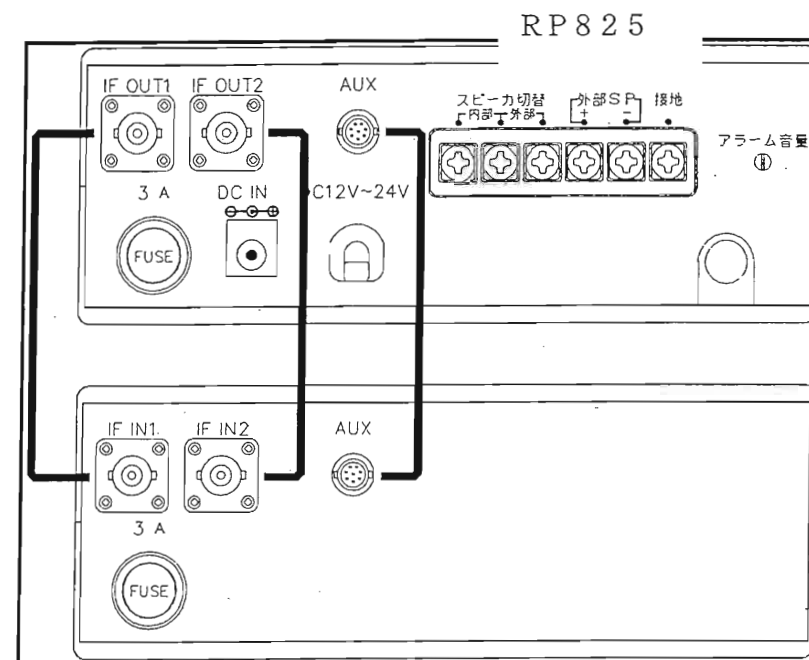


通話時はマイクロホンのPTT スイッチ ON 側で使します。ヘッド・セットスイッチは「受信側」
で使します。

ヘッド・セットを使用する場合はヘッド・セットスイッチを「送信/受信」側で使します。

4-5. オプションの受信装置接続

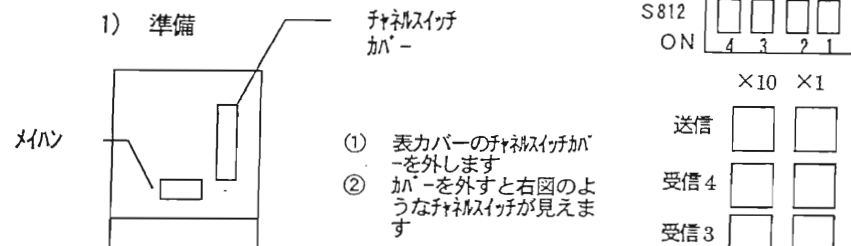
接続例:「RP825」と「ICX400R4」(1対8への増設)



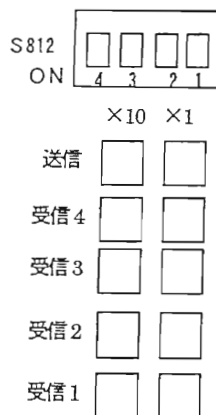
接続方法

RP825		ICX400R4
IF OUT1	—BNC 高周波ケーブル—	IF IN1
IF OUT2	—BNC 高周波ケーブル—	IF IN2
AUX	— 専用ケーブル —	AUX

4-6. チャンネルの設定



- ① 表カバーのチャンネルスイッチカバーを外します
- ② カバーを外すと右図のようなチャンネルスイッチが見えます



2) 送信チャンネル

送信のチャンネルスイッチにより希望のチャンネルに設定します

例：チャンネル「1」の場合は、×10を「0」、×1を「1」にします
(チャンネルは、「1CH」～「12CH」からお選びください。)

3) 受信チャンネル

受信1～受信4のチャンネルスイッチにより希望のチャンネルに設定します

設定方法は、送信の場合と同じです。

(チャンネルは、「1CH」～「36CH」からお選びください。)

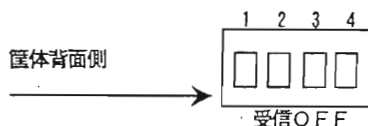
4) インターリーブチャンネル

- ・ 送信チャンネル ; 送信チャンネルの「41」～「52」がインターリーブチャンネルです。
例：「1CH」のインターリーブチャンネルが「41」になります。
- ・ 受信チャンネル ; チャンネルスイッチの上、「S812」のデッドスイッチ「1」～「4」を「ON」側に設定するとインターリーブチャンネルになります。
デッドスイッチの「1」～「4」が受信「1」～「4」に対応します。
よって、「受信1」～「受信4」のインターリーブチャンネルを個別に設定できます。

4-7. 受信OFF設定

筐体の背面の「受信OFF」スイッチにより受信機能を完全に「OFF」に設定できます。

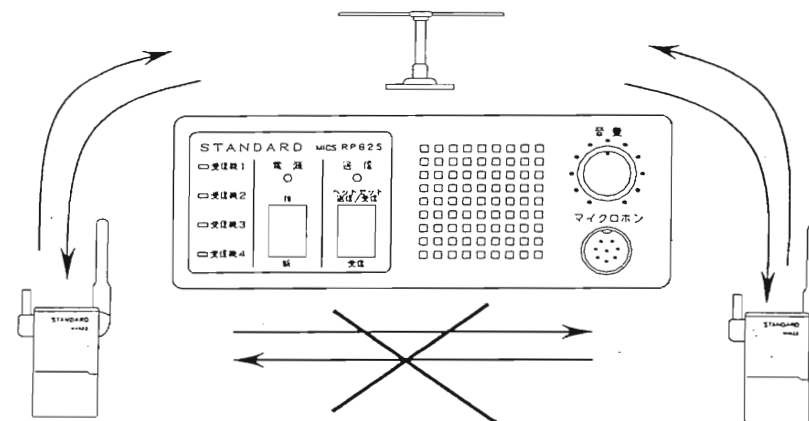
「受信OFF」スイッチの「1」～「4」は「受信1」～「受信4」に対応しています
使用しないチャンネルの番号のスイッチを「OFF」側に設定します。



5. 通話

準備が完了したら本装置の電源スイッチを『接』にします。

携帯電話からの電波を受信すると中継動作になり、子機同士はこの中継動作により通話が可能になります。



子機 (HX823・HX833)

○本システムの機器は、送信と受信を同時に行います。従って、他の人が話しているのを聞きながら通話ができます。

○本システムは、子機間の通話を親機が中継をして行います。従って、子機同士が直接通話することは出来ません。

○基本システムは1対4で、本機を含め5人までグループ通話が出来ます。

さらにヘッド・セットを使用することにより、作業しながらハンドフリーで安全、確実に通話ができます。

(本機は同時に中継できる子機は4台までですが、子機が同時に送信しなければ子機は何台使用しても結構です。各子機のチャンネルは子機1～4のいずれかの周波数に設定して下さい。)

アフターサービスについて

◎保証書

- ・保証書は必ず「販売店・お買上げ日」などの記入をお確かめになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保存してください。
- ・保証期間は、お買上げから1年です。
- ・万一異常にお気づきのときは、お買上げの販売店にご連絡下さい。

◎保証期間中の修理

- ・お買上げの販売店にご連絡下さい。
保証書の規定に従って修理させていただきます。

◎保証期間後の修理

- ・お買上げの販売店にご連絡下さい。

保守・お手入れ

- ・本体が汚れた時は、乾いた布で乾拭きしてください。
みがき粉、粉せっけん、ワックス、ベンジン、シンナー、石油、熱湯などは使わないで下さい。
- ・化学ぞうきんを使うときは、その注意書きに従ってください。
- ・湿気やほこりの多い所、また、高温となる所には保管しないでください。

無料修理規定

1. 取扱説明書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には、お買上げの販売店にお申し付けください。
2. ご転居の場合の修理ご依頼先は、お買上げの販売店にご相談ください。
3. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ) 輸送、落下などによる故障及び損傷
(ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定以外の使用電源（電圧）などによる故障及び損傷
(ニ) 本機以外の故障（例えばAC電源の異常入力の故障等）に誘発された故障及び損傷
(ホ) 本書のご提示がない場合
(ヘ) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
5. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

*この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店にお問い合わせください。

*This warranty is valid only for Japan

3者間・5者間ハウリング発生時の対応処置方法

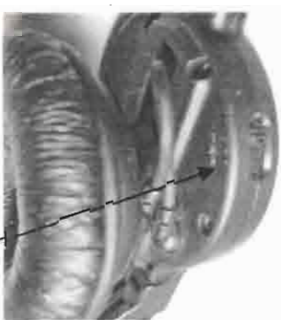
3者間・5者間の無線機ハウリング(キー音)が発生しやすいので下記内容をご確認下さい。

耳とヘッドセットをピッタリ合わせて下さい。
スピーカーからの音もれがハウリングの原因です。

マイクロホンアーム先端のFと書いてある部分を口元に向けて3cm～5cm離して下さい。

ヘッドセットのスピーカ一部分は上下に移動しますので耳の中心にくるようにして下さい。

ヘッドセットのマイク感度切換えスイッチです。H(高感度) M(中感度) L(低感度)の切換ができますがハウリング防止の為、通常はL(低感度)でご使用ください。



HX-833

5者間混信時のチャンネル変更方法 (混信時以外はチャンネル変更しないでください)

〈子機〉のチャンネル変更方法 *〈子機の設定〉HX 8 3 3を参考にして下さい

1. チャンネルを変える前に子機の設定モードを呼び出します。
・FボタンとMONI ボタンを同時に押しながら電源を入れます。
2. 子機のチャンネルを変える。

・キーを押すごとに液晶のシステムチャンネル番号が変わります。

4 1 → 4 2 → 4 3 → 4 4 . . . (4a ~ 4h は使用出来ません)

通常は4 1 になっていますので4 2 ~ 4 8に変更して下さい。子機4台とも同じシステムチャンネルにします。

子機番号は各々1・2・3・4になっていることを確認してください

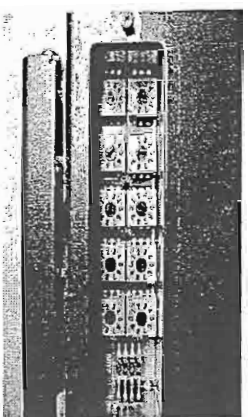
3. 子機のチャンネル変更を確認させる。

・ 子機のチャンネル変更した後 (液晶点滅状態) F ボタンを1回以上押しして電源を一度切って

子機のチャンネル変更は終了です。

〈親機〉のチャンネル変更方法

1. 親機本体上ツタ右側にあるネジ×2本を精密ドライバーで外します。



* 上が1ケタ数字、下が2ケタ数字になります。

左側より受信1(RX1)～受信4(RX4)→番右側が送信(TX)チャンネルです。

通常左側より0 1・0 9・1 8・2 8・0 1になっていますが下記表の図の通り受信1～受信4・送信の→の位置を変えてください。

子機システムチャンネル	受信1	受信2	受信3	受信4	送信
41	01	09	18	28	01
42	02	10	19	29	02
43	03	11	20	30	03
44	04	12	21	31	04
45	05	13	22	32	05
46	06	14	23	33	06
47	07	15	24	34	07
48	08	16	25	35	08

* 親機と子機同じチャンネルに合わせないと通話出来ません。

* 受信1～受信4・送信のツテミを細いドライバー等で同じ子機チャンネルを確認し表の数字に→の先を合わせして下さい

〈子機の設定〉HX833の設定

1. 設定モードにする… F ボタンと MONI ボタンを同時に押しながら電源を入れます。



MONI ボタン・CAI ボタンは本体横のコンタクトを回すことで

HX834

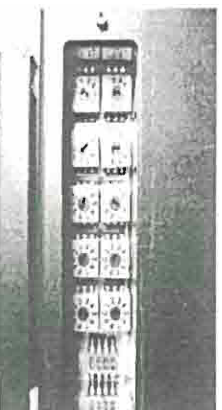
5 着問混信時のチャンネル変更方法 (混信時以外はチャンネル変更しないでください)

〈子機〉のチャンネル変更方法

1. チャンネルを変える前に子機の設定モードを呼び出します。
・ FボタンとMONI ボタンを同時に押しながら電源を入れFボタンを5回押します。
2. 子機のチャンネルを変える。
・ キーを押すごとに液晶のシステムチャンネル番号が変わります。
41→42→43→44・・・(h1～h8は使用出来ません)
4? になっていますので41～48に変更して下さい。子機4台とも同じシステムチャンネルにします。
子機番号は各々1・2・3・4になっていることを確認してください
3. 子機のチャンネル変更を確定させる。
・ 子機のチャンネル変更した後 (液晶点滅状態) Fボタンを1回以上押して電源を一度切って子機のチャンネル変更は終了です。

〈親機〉のチャンネル変更方法

1. 親機本体上フタ右側にあるネジ×2本を精密ドライバーで外します。



* 上が10の位数字、下が1の位数字になります。

左側より受信1(RX1)～受信4(RX4)一番右側が送信(TX)チャンネルです。

下記表の図の通り受信1～受信4・送信の→の位置を変えてください。

子機システムチャンネル	受信1	受信2	受信3	受信4	送信
41	01	09	18	28	01
42	02	10	19	29	02
43	03	11	20	30	03
44	04	12	21	31	04
45	05	13	22	32	05
46	06	14	23	33	06
47	07	15	24	34	07
48	08	16	25	35	08

* 親機と子機同じチャンネルに合わせないと通話出来ません。

* 受信1～受信4・送信のツメを細いドライバー等で回し子機チャンネルを確認し表の数字に→の先を合わせて下さい

